

〔大和本草九〕牛扁レ。草ト云山野近道處處ニ多ク繁生ス、藻鹽草ニタチマチ草ト訓ズ、又俗ニゲンノセウコトモ云、葉ハ毛茛及キジン草ニ似テ、花ノ形ハ如梅花、六七月ニ紅紫花ヲ開ク、

葉莖花トモニ陰干ニシテ爲末、湯ニテ服ス、能痢ヲ治ス、赤痢ニ尤可也、又爲煎湯或細末シテ丸ス、皆驗アリ、本草ニハ此功能ヲノセズ、本草毒草類ニノセタリ、然共曰無毒、一度栽レバ繁盛難除、

〔重修本草綱目啓蒙十三下〕牛扁 俗人草種樹家

山中ニ陰地ニ生ズ、葉一根ニ叢生ス、形草鳥頭葉ニ似テ色淺シ、岐多ク白點アリ、夏方莖ヲ抽テ葉互生ス、秋ニ至テ高サ二三尺、花ハ穗ヲナシテ生ズ、形鳥頭花ニ似テ小ク、淡紫色又黃白色ノモノアリ、花後小莢ヲ結ブ、又鳥頭ニ似タリ、コノ草享保年中、朝鮮ヨリ秦茛ト名ケ渡ス、故ニ今花家ニ誤テ唐種ノ秦茛ト呼ブ、其花黃白色ナリ、然レドモ秦茛ノ葉ハ形長シテ薑葉ノ如シ、漢渡秦茛中ニ雜リ來ルモノ間アリ、又藜蘆ノ條下ニ、韓保昇曰、藜蘆似鬱金秦茛襄荷等ト云リ、コレニ據ル時ハ、秦茛葉ハ鳥頭葉ニ似ザルコト明ナリ、俗人草ノ根ハ頭ハ内空シクシテ、雜紋アリテ網ノ如シ、其下ニ枝アリテ子ジレ末ニテハ或數枝相合テ一條トナリ、或ハ左或ハ右ニ糾、其形甚秦茛根ニ似タリ、故ニ蘇恭ノ説ニ、牛扁根如秦茛而細ト云、俗人草根ハ皮黒肉ハ白シ、乾ケバ微黒赤ヲ帶ブ、味苦酸、秦茛根ハ黃白色味苦シ、古ヨリ牛扁ヲゲンノシヤウコニ充ツルハ非ナリ、

立金花

〔和漢三才圖會九十七〕立金花 俗稱本字未詳 又有金立花

按立金花生池澤中葉似虎耳草葉、而無白茸、深青色、背色淺微帶紫理、四五月抽莖、頂開六瓣黃花、結實有細子、又其莖葉花皆同、而橫韌者名金立花、

〔草木育種後編下〕類并冒稱の類るんこう 艸 花の莖立を流泉花と云、これを流金花といふなり、

春芽出の時植かへざれば花なし、溝泥を乾かして栽べし、根に多く干鯛をさしてよし、芽先より根を生ずるを鉢の中へ曲て竹をさしてよし、